

第5回 インフラツーリズム 有識者懇談会

令和2年1月28日

【清水座長】 それでは議事を早速進めたいと思います。今日議事は2つございます。インフラツーリズム魅力倍増プロジェクトのモデル地区の進捗報告ということですが、まず前回までの議論の概要について事務局から説明をお願いします。

【観光・地域づくり事業調整官】 資料の1-1の3ページ目でございます。こちらは前回までの懇談会資料の抜粋ですが、平成30年11月に懇談会を立ち上げ、その後インフラツーリズムの拡大に向けてという議論をしています。

第4回の持ち回りのところで、直轄、管理施設、会社管理施設から20地区を推薦し、モデル地区5箇所を選定したところでございます。モデル地区での取り組み内容ですが、一つ目は周辺観光資源の調査を実施してございます。2つ目、地域資源を活用したツアー企画ということで地域でのストーリーがあるようなツアーの組み立てに向けて企画をしたところでございます。3つ目、ファムツアー、下見招待旅行を実施しました。旅行会社、訪日外国人旅行者等を対象としたツアーを実施し、アンケートやヒアリングによって意見を徴収したところでございます。4つ目、持続的な体制作りということで、持続的にツアーを実施するための体制を各地域で検討している状況です。

5ページ、6ページ目は、7月に5箇所を選定した際の記者発表資料です。モデル地区としては宮城県の鳴子ダム、群馬県の八ッ場ダム、京都府の天ヶ瀬ダム、愛媛県の来島海峡大橋、鹿児島県の鶴田ダム、5箇所を選定して、事業を進めております。

【清水座長】 ありがとうございます。それではいかがでしょうか。特にないでしょうか。では確認いただいたということで、次にモデル地区の進捗に関して事務局よりお願いします。

【観光・地域づくり事業調整官】 資料の1-1の8ページ目をご覧ください。左側にフローを書いています。今年度については、まずは現地協議会の準備、既存の組織をベースに必要な団体に入っていていただいて協議会の準備をしたところなんです。それにおきまして、第1回現地協議会を開催、インフラと周辺地域との連携に向けた現状把握と課題の抽出、あとは事業実施方針としてコースの設定等を行い、ツアーのコースを検討したところでございます。

それを受けましてファムツアーを実施しています。インフラ見学の地域や資源の評価、課題改善点をファムツアーのアンケートをもとに意見を取りまとめているところです。

第2回現地協議会ということで、ファムツアーで指摘された問題を踏まえて、事業実施方針の見直し、ツアー提案シート、詳細を検討することに加え、地域の実情を踏まえて運営体制の検討を行ってきたところです。

1番下ですが、2月に向けてこれまでの成果を取りまとめていきたいと考えているところです。

続いて9ページ、上から鳴子、天ヶ瀬といったように並ばせていただいております。八ッ場ダムを除くと、上の4カ所では1回目の協議会を実施しています。来島海峡大橋に関しては、第2回の協議会も実施しています。なお、鶴田ダムも2月の6、7日に協議会を予定しています。鳴子、天ヶ瀬については日程調整を行っているところでございます。

八ッ場ダムについては追ってまた詳細をご説明したいと思いますが、事業者のヒアリング、アンケート調査を実施して、1月末にファムツアーを実施する予定でございます。

これが今まで5箇所全体のスケジュールになります。各個別の事業箇所のまず全体概要からご説明したいと思います。詳細は追ってご説明させていただきます。

まず左側から、鳴子ダムは既存組織のほかに、連携団体として、若者の団体を取り込んで行きたいと考えています。事業実施方針ですが、魅力倍增通年化プロジェクトとして、四季折々の美しさの見せ方、山間部のダムでございまして、すだれ放流などを年1回ではなく、年何回か実施できないかを検討しているところでございます。

ツアー設定につきましては、上段はインフラ施設をどう見せるか、下につきましては、周辺の地域の連携です。あくまでツアーの案ですが、各地域でこのような形でツアー設定案を考えているということです。鳴子ダムにつきましては、インフラについてはすだれ放流等を、通年で実施していけないかということ、周辺地域連携については、周辺には温泉があるのでそちらとの連携などをツアー設定として考えています。

その下は第1回協議会での要旨でございまして、地域の方からの意見ですが、紅葉時期はお客様が入るが、紅葉時期以外の魅力の発信が課題、あとは案内できるガイドさんがいないといった意見がございまして。

実施方針ですが、やはり通年でどう見せるか。ダムから周辺の河口までの水をテーマにしたようなツアー設定が必要でないのかというような意見が出たところです。

続きましてファムツアーの意見でございまして、災害時の対応、震災時のダム対応は興味をひくと。あとやはり日本の歴史文化が良いというような意見。あと課題としては、ダムの中のインクラインなのですが、やはり乗車定員が少ないといった意見がございまして。

今後の検討課題としては、水をテーマとした地域の観光資源とダムを結ぶストーリーを検討

していく必要がございます。あとは災害対応、夜の見学プログラムについて検討している段階です。

続きまして、天ヶ瀬ダムですが、検討会がございまして、下に連携団体、各種ございますが、連携団体を取り込んだうえで進めていくというところでございます。事業はいろいろとありますが、やはり「お茶の京都」魅力発信プロジェクトということで、宇治でございますので、お茶を考えながら進めていこうと考えているところでございます。

ここは有名な観光地が近隣にございますので、有名観光地、京都市内の方から外国人等の誘客を考えていこうということでございます。ツアー設定についてですが、インフラ関係につきましては、天ヶ瀬ダムそのものの見学ツアーの魅力を向上していこうということで考えています。あとは周辺ダムとの組み合わせ等々を考えている状況です。

周辺地域との連携についてですが、宇治地域の宿泊とダムの見学を組み合わせたツアー、世界遺産と日本遺産があるのでこちらと連携を考えたツアー等を考えている状況でございます。

第1回目の協議会の要旨になります。既存ツアーは今まで実施しているが、やはり人が集まらなくて中止になったことがあり、また、宇治の売りはやはりお茶、お寺。ここを考えていけないといけないと。あと、観光振興アクションプログラムということで、現地でフットパス等の公園整備をこれから実施していくということで、それらと連携しながら進めていくということでございます。

あとは事業方針、ファムツアーへの反映でございますけど、宇治市との連携、あとはダムとかお茶、寺院等をテーマにしたものを設定するというところで考えています。

ファムツアーの意見でございますが、キャットウォークについてはやはりエキサイティングだと。食事はベジタリアンやヴィーガンに向いている食事もあった。あと、お茶の体験も気軽にできるのでそこは良いと。あとは課題、改善点についてですが、天ヶ瀬ダムが宇治、お茶を支えているようなストーリーが欲しい。あとはアクティビティです。水の関係。あとは京都と比べてPR不足ではないのかといった意見がございました。

今後の検討課題ですが、個人向け見学ツアーの設定、旧志津川発電所がございまして、そちらの整備や活用の検討ということで考えている状況でございます。

続きまして来島海峡大橋について、既存協議会として環瀬戸内海地域交流促進協議会があり、各連携団体が入っていただいて進めている状況です。

事業の実施方針ですが、しまなみ海道魅力拡大プロジェクトということで、やはり橋の見せ方・体験プロジェクト、あとは少数ということで、高単価な見学ツアーを設計していきたいと考えています。

ツアーについてですが、塔頂体験を個人で随時予約できるようなツアー、あとは日時を限定した少人数、高付加価値のツアー、あとは貸し切りの塔頂プランなども考えています。

周辺地域との連携ですが、村上海賊との連携、しまなみ海道との連携、スタンプラリーといえますか、その連携、橋を多様な場所から見るツアー、富裕層向けの特別プランなど高単価になるような内容を考えていきたいということでございます。

第1回協議会の要旨ですが、実施のためにはガイド、保安要員の確保、これらが大きな課題です。塔頂するための馬島には自転車や定期船、観潮船など複数のアクセス手段があります。

ファミツアーの意見でございますが、やはり橋の塔頂は特別感があると。あとは地元の人とのふれあい、生活を見るのは面白いと。

課題改善点としては、橋の技術についての説明が欲しい、橋の説明は専門性がわかりやすく説明できるネイティブのガイドが必要ということでございます。

今後の検討課題としては、塔頂体験ガイドの確保、候補者の抽出、4月以降に社会実験とできるよう、地元での塔頂実験、あとは地元での受け入れ体制に向けた合意形成が必要ということでございます。

鶴田ダムについては、観光振興部会を中心に、その他連携団体という構成でございます。薩摩観光みらいプロジェクトということで、インフラツーリズムを多様な見せ方で拡大していこうということで、ツアーの資料ですが、上段が団体向け、下段が個人向けで各種考えてございます。

例えば団体向けであれば、小中学生向け教育旅行、バリアフリー対応、焼酒貯蔵などを考えています。あと個人向けに関しては温泉、宿泊とダム見学のツアー、1名からでも行けるツアー、遊覧船等のツアーといった様々な企画を考えています。

第1回協議会の要旨です。やはり顧客価値の追加から周辺観光資源との連携、あと点検放流のアピールをしていきたい。あとダム湖面に旧曾木発電所の遺構があるのでその辺に行くツアーを企画したらよいということでございます。

事業方針、ファミツアーへの反映ですが、やはり顧客価値を高める、周辺観光資源との連携を意識した商品企画。あとは遺構や点検放流をセットにしたツアーを設定していった方がよいということでございます。

ファミツアーの意見集約ですが、やはりダム内部の見学は貴重な体験だと。ダム放流にあわせたマルシェは楽しかったと。あと、武家屋敷群でのサムライツーリズムは子供たちの交流

があり良かったというようにお話がございました。

課題改善点ですが、やはりダムの仕組みや解説のパンフレットが欲しいと。あとはアクティブティとあわせた幅広いプランがあるとよいという話がありました。

今後の検討課題としては、やはり防災、治水をテーマとした見学ルート、ガイドシナリオの検討、点検放流を季節イベントとして定着、拡充していくというようなことを検討していくという状況です。

最後にハッ場ダム。こちらは昨年 9 月にやんばツアーズによるツアーが実質終了し、10 月以降は地元主体のツアーに実施を移行しています。地元主体の自走に向けて、現地でアンケートやファムツアーを実施する予定ということでございます。

企業や自治体を対象にしたアンケート結果の一部ですが、地域によって観光客受け入れに対する意識の差があることがわかりました。あとはハード面の整備に関する施設間格差があることもわかったということでございます。

訪日外国人を対象としたアンケートでは、やはりハッ場ダムの情報、認識不足が浮き彫りになっています。国によって魅力が違うので、ターゲットにあわせた戦略が必要かと思えます。

【清水座長】 ありがとうございます。一旦ここで議論したいと思いますがいかがでしょうか。

【篠原委員】 説明ありがとうございました。昨年この委員会が立ち上がり、魅力倍増プロジェクトということで進めてきました。実際に 4 月から動き出しましたが、調整課の皆様、五十嵐さん、坂ノ上さんはハードなスケジュールの中で現地にも入っていただき頑張ってください、熱意を感じながら仕事が動いてきたと感じています。

全体の話ですが、それぞれ課題はまた出るとは思いますが、やっぱり今回根本的に感じるのは、来島、鶴田、ハッ場、それぞれ入らせてもらいましたが、今回協議会があるという前提で選定していますが、協議会が形骸化しているという事例がありました。また地元の行政のやる気、受け入れをして自分たちのものにしようという意欲がない。

国は今言ったとおり、地整の企画課もやる気がありますが、地域は国のためにやってやらざるを得ないという感じを感じる。なので反省点としては、現地の情報をしっかり取っていないと、動き始めてから不都合が出てきいるなと思うところでございます。

ファムツアーについては前も申し上げましたが、こちらでお金を負担してお連れしている以上、悪い意見はあまり出ないんですね。現地の方も一生懸命その日のためにイベント的に色々詰め込むので悪い話はあまり出ないんです。参考程度にすべきだと思っています。

いずれにしても、地域で受け入れて回していく体制ができていませんから、年度内に見極め

をして、次年度も再度採択をして伸ばしていくのか、切るわけにはいかないのかで一步引いてフォローアップをするのか、地元の反応をみながらサポートしていくといった覚悟で仕切り直さないと、いろんな問題点が多いなと思います。個別のものはまた後ほどお話しします。

【河野委員】 今先生がおっしゃったこととほとんど同感なんですけど、私は天ヶ瀬だけしか行っていませんが、ファムツアーの意見集約を見ると、行かなくても言えることとか、書けることしか言ってもらえてないなど。

せっかく来てくださった外国人の視点を持っている評価者の方に、私たちが気が付かない意見を言っていたら良かったんですけども、想像の範囲内なので残念というのが一つ。

もう一つ見ていると思うのは、今回はインフラツーリズムを商品として磨き上げていくのが事業の趣旨であって、そのためにダム見学から卒業しようということで、ただの見学会は卒業して観光コンテンツとして既存のコンテンツと連携することで新しいものとして作り上げていこうという趣旨でスタートしたと思いますが、読んでいる限り、既存の地域の観光資源と連携してパッケージを作るというふうに読みかえられるところが結構多いのが残念。短期の中でやらなければいけないものはそういう見せ方もありだと思いますが、そもそも、見学からコンテンツへという議論が現地ですごくまでできているのかが不安はありました。

実際天ヶ瀬でも同じで、事業の進捗説明でみると、広域周遊ということでスタートしましたが、現地ではその認識がないので、実際は宇治の中でとどまっているという感じ。新しいものを作り上げるときに、これまでとどこを変えるのか、どこを変えていける可能性があるのか、どういうふうに変えられるのか、一度仕切り直して、これまでとどこを変えるのかを棚卸した上で、これはできるけどこれはできないと。こういった整理がないままツアー作りましょと進んでしまっている。次に進めていくポジションを考えるためにも、次に進める上では、今年度内で洗い出した上で、どうするかをきっちりやったほうがいいと感じました。

【清水座長】 期間が短かったということで、正直「できることをやった」という感じかと思います。評価をして来年度以降に結びつけるには、例えば今回ダムの話が多いんですが、やはりテーマは水とか流域になるしかないんだと。私は鳴子ダムに参加させていただきましたけれども、本来は下流域の大崎耕土などまで含めて考えないとだめなんですよね。今回はどうしても急仕立てだったので難しかったと。

現地協議会については、鳴子は頑張っていたいたんですが、ダムの責任者は周辺しか見なくなるのはしょうがないですね。しかも巻き込む団体も鳴子の団体しか呼んでいないので、広域展開が難しい。どういう組織体をつくるのかはかなり本気で見直さないといけないとい

うのが、私が鳴子を見た感想です。

今後を考える上で、5 つくらい考えないといけないと思っています。

1 つは、鳴子が典型的ですけど、インフラを本格的に見せようと思ったときに、キャパシティの問題が出てくるんですよ。これは逆立ちしてもどうにもならない。これが制約になると数は捌けないので、よほど強いテーマ設定で単価を上げるしかない。それができるかどうかだと思います。

2 つ目は、周辺資源とどう結びつけるかが狭い範囲しか見ていないので非常に弱い、と。各地区で本格的に続けるためにはそれぞれこの観点から宿題を出さないといけない。

3つ目はターゲット。ファムツアーは、鳴子の場合は日本語ができる欧米系の方である程度物分りもよく、そんなに滅茶苦茶な意見は出なかったですし、多分日本もある程度好きだと思うので、厳しくなかったと思うんですよ。欧米にもいろいろな方がいますし、アジアなどを含めると、ターゲットが誰かは、テーマ設定と合わせてかなり考えないといけない。

4 つ目はガイド。インフラ本体のガイドと周辺、広域のガイドの 2 つの種類が必要なんですよ。これをどうするかは喫緊の課題だ、と。

5 つ目、主導する組織をどこにするか。これはインフラの管理者ではないと思んですよ。今回は急仕立てだったのでインフラ管理者がどちらかというと前面に立っていましたが、人にもよりますし、下流域まで含めればもう少し違うところが主導すべき。誰が主導するかが次の検討課題と感じます。

まずは全体の話をしましたけども、時間もありますので各地の話をできればと思います。

【観光・地域づくり事業調整官】 鳴子ダムです。資料 1-1 の 10 ページをご覧ください。こちらは周辺の観光地の状況でございます。別冊の資料 2 にはどのくらい来訪者があるかや、どのようなツアーを実施しているかといったデータ関係をつけています。

11 ページ目ですが、現地協議会の状況でございます。既存組織が鳴子ダム水源地域ビジョン幹事会ということでございます。その他連携団体として若手の団体に入っていただいています。第 1 回協議会は 11 月に実施したという状況でございます。

12 ページ目、先ほどの説明と重複するところがございますが、事業実施方針については、プロジェクトのタイトル、概要、柱、目標をたてています。鳴子ダムにつきましては、やはりインフラツーリズムは東北の復興応援ということで、通年化プロジェクトを実施していきたいと考えているところがございます。

その内容ですが、四季折々の見せ方、周辺の温泉関係とのストーリーの検討、鳴子ダムの

見学プログラムの深度化、鳴子ダムは奨励土木遺産になっておりますけども、世界農業遺産の大崎耕土との連携を考えていけないといけないと考えているところでございます。

鳴子ダム周辺はもともと紅葉シーズンしか多くの観光客が入っていないということで、宿泊者の増加、通年化を踏まえてプログラムを考えていきたいというところでございます。

12 ページでございます。こちらはそれぞれのツアーについてでございます。①につきましてはすだれ放流を5月に実施していますが、これを通年活用できないかということを考えているところでございます。②は若干①とダブるところがありますが、夏・秋・冬に実施するような魅力的なプログラムということで、紅葉のほかにも雪などを組み合わせて、季節ならではのプログラムの検討していきたい、③は歴史的な意義を知るということで、奨励土木遺産にも認定されている理由や技術的な特徴を見せていきたいということでございます。

周辺地域については、①やはり鳴子温泉郷の温泉プランとパッケージ化ということで、地元の温泉協会との連携、夜間早朝のプレミアム企画を想定してございます。②ライトアップとの組み合わせ、夜間の観光も考えていく。③、鳴子ダムの見学と組み合わせた利水見学ツアーということで、東北電力の発電所がございまして、そことの連携がまだなので、新たな連携のプログラムを考えていく。④ですが、北上川水系の上流のダム、温泉、中流域の大崎耕土、河口の石巻の海産物を組み合わせた周遊ツアーを検討していきたいという風に考えてございます。

14 ページをご覧ください。第1回協議会の意見でございます。やはり鳴子は紅葉の時期は観光客が多いが、紅葉終了から冬、雪解けから春までの発信が課題だということでございます。

周辺には、大崎耕土や鳴子温泉等ございますが、資源はあるけども見せ方や商品化が課題と。現状、案内できるガイドが少なく、常時案内に対応できない。インフラツアーは特別感がある場合、集客力が高いですけども、夜のイベント、ライトアップなどをやることで特別感が出せるのではないかと。インバウンドですが、国籍によって興味が異なるので、特にアジア系はインスタ映えとか、そういった興味があるもので組み立てていけないといけないと考えてございます。

これを踏まえて、鳴子ダムでは通年でどう見せるかということで、水をテーマにして、鳴子ダムとの関連性を組み込むというようなファミツアーを実施したところでございます。

15 ページ目ですが、ファミツアーの実施でございます。インバウンド旅行関係者5名で実施し、ツアー行程は1泊2日でございまして、東京発着で実施しております。

他のところも同じですが、2日目の午後に、地元関係者を交えて意見交換を実施しております。

16 ページ、ファミツアーでの意見でございます。左側の評価点は、災害リスクが高い国なの

で、建設の歴史や災害対応、震災時のダムの話は興味を引いたと。また、地域観光資源との連携で酒造等も見っていますが、歴史文化は外国人も興味ありと。あとは地元のお年寄り、地域の人との交流は魅力的ということでございます。

課題改善点としてはインクラインの定員が少ないと。プロジェクトマッピングやコンサート等を夜の観光として活用できれば宿泊増に寄与するのではないかと。地域観光資源ですが、ダム周辺にハイキングコースなどのアクティビティがあればよいと。あと受入体制につきましては、ガイドはネイティブがいいということで、留学生の活用も検討するべきじゃないかと。情報発信に関しては、QRコードの活用した多言語の案内、英語のプロモーションの動画等もあればよいと挙がっております。

17 ページですが、これからまだ開催予定はございますが、第2回の現地協議会では第1回の状況を踏まえて対応を検討していく。①ですが、やはりターゲットの設定とターゲットの興味に即した観光資源の選定、②すだれ放流以外の水をテーマとしたストーリーの検討、③災害対応にポイントをおいた、ガイドシナリオ、見学コースの検討と。④夜の見学プログラム、⑤東北電力鳴子発電所との連携、⑥ガイド育成等の受け入れ態勢の整備について検討しなければいけないと考えているところでございます。

鳴子ダムに関しては以上でございます。

【清水座長】 可能であれば、それぞれ行った委員から補足をいただければ。

私から補足ですが、今回主導いただいたダムの所長がかなり頑張っておられますし、思いのほか地域とつながりがあるということで、まずは彼に大きく依存してやってもいいかも一方で思いました。いろんな資源を組み合わせれば、量は稼げないが、単価が高いツアーはできそうだなと。アクセスもいいので、その意味で可能性は結構感じた視察でした。

その上でですが、難しいと思ったのが、例えば 13 ページで、選奨土木遺産なんですよ。コンピューターもない時代に日本人だけで初めてアーチダムを設計したからなのですが、外国人から見ると、これをどう説明するのか難しい。プライドをくすぐるのか、歴史に興味があるのは間違いないですが、どう伝えるのが難しいと思いました。それから 16 ページ、ガイドは留学生云々ということで、地域の大学を活用、とあります。宮城大学という県立の公立大学があり、ここは私のいる首都大学東京と研究協力関係があるんですよ。ファムツアーの次の週に、事業構想学部と言うんですが、鳴子でインフラツーリズムをやっていると説明したら興味を持っていて、その学部の学生を巻き込めそうな余地があると思いました。留学生もかならず居るので、巻き込めれば面白そうと思ったということです。付け加えるのはそんなところでしょうか。

【河野委員】 推奨土木遺産はたしかに外国人向けには厳しいですね。技術を伝えるとかはありだと思いますがプライドをくすぐるまでは難しいと思いますし、自国の技術との比較も難しいと思うので、そこは普通に説明すればいいと思います。

確かにこの場所は周辺資源に恵まれているので、団体でいっぱい呼ぶより FIT など小グループ、4,5 人に対してどうアプローチできるかが最終的な持って行き所と気がしています。そこに関しては私も同感です。

ガイドはネイティブのほうがいいという意見はもちろん参加者から出たと思いますが、異論もあって、両方の意見があるんですね。その地域の日本の歴史や生活文化というものに立脚していないネイティブの人がしゃべるのがいいという人と、そこの土着の方が話して通訳で聞けるのがいいという人、同じだけいるんですよ。

ガイドがネイティブのほうがいいという人は、利便性の方にウエイトを置いている。その国のカルチャーをより多く知りたいという方にウエイトを置く人は、むしろ日本人が喋ってほしくて、それをポケットでもタブレットでもいいので、ツールでサポートしてもらえればということがある。

なので、ガイドはネイティブのほうがいいというのには縛られないほうがいいと思います。実際育てても食べていけないので、大学との連携としてもっと幅広な活動の一環として入ってもらうのはありだと思いますが、ガイドとして育てていくのは、多分それではモチベーションが続かない。ガイドとして育てる人間をここに貼り付けるのは正直非現実的だと思っていて、コミュニケーションサポートツールを使うほうが、いつ来るかわからない FIT に対しても確実性が高く実効性も高いかなという気はしています。

【篠原委員】 まずは足元を固めないといけないと思います。まず前段で整理したいのですが、今回の事業予算はインバウンドとのセットのフレームで作られているから、その視野、可能性は十分理解した上での話ですが、今のネイティブガイドの話とかについてでもそうですが、日本人が伺ったときにもシナリオ自体ができていないわけではないんですよ。口のたつ思いのある人がその場で色々と話している、それが 5 つの地域の現場なわけですね。まず話してもらう原稿ができていない、それが現状だという認識を持たないといけないだろうと。

旧建のみなさんの努力下、今までの社会科見学から一般の視察、ここから大きく変わって成功したのが八ッ場ダムであり、首都圏外郭放水路なんですね。首都圏外郭放水路は典型的で、有料化を実現できました。今では 1,000 円と 3,000 円のコースがあって、3,000 円のほうが先に売れていくんですよ。付加価値をしっかりとつけて運用するというのは、旧建のみなさんの休日出勤の問題を解決するための苦肉の策であったんですけど、地元と建てつけを前提に作り上

げていくということにならないと、ご指摘の部分は何ら変わっていかないと思います。

例えば 13 ページを拝見すると、通年化の課題とか選奨土木とか色々ありますが、大きい資料を見ると基本的に同じかと思いますが、鶴田ダムの団体向け提案というのを見ていただきたい。

鶴田ダムでは団体向け、個人向けで仕分けさせていただいたんですね。これハッ場についても首都圏外郭についてもそうなんです、大きく 2 つのターゲットがあって、それぞれ何かしら目的があってこれらと思うんです。ファミリーの方に選奨土木遺産はないですが、テクニカルビジットで具体的に東北の復旧に関する、福島第一原発を中心に回るツアーとかも今はあるみたいですが、こうしたやはり日本の土木技術のようなストーリーでやるような団体のプログラム。ご案内も来てからどうしようではなく、ポイントをしっかり整理しておく、こういうようなことを具体的に指導できる体制にならないと、なかなか変わってこないと思うんです。13 ページの内容も、まず団体、個人の仕分けをしていくこと、次にイベントのものと季節ごとで、夏なら夏だけ運用していくもの、あとは年間を通して、小さな家族でも対応していく、こういった仕分けをしていかないといけないと思います。

我々がこれを始めるときに「チャンス」と言ったと思いますが、なぜインフラツーリズムのチャンスかという、観光資源を広げることも官公庁に応援してもらっているわけですが、それ以上に、激甚化する災害が起こっている中で、インフラの意義を楽しく国民に伝えるということだと思えます。シナリオはしっかりと足を据えたものに、統一してやっていかないといけないと思います。鶴田ダムもそうですが、最終的にはインフラだけでは命は救えない、自助が大事というシナリオなんです。そこはしっかりとある程度レベルを合わせていかないといけないのかなと感じます。

それから、1 回目の協議会、11 月 8 日とありますが、4 月からスタートした事業が 11 月に最初の協議会でしょう。タイムスケジュールの管理はどうなっているのかという話と、1 回目が終わって今までの間に具体的に何を地元に向けて、協議をしてもらうような指示を出せたかということ。

これは、今回委託をしている会社もおられますが、ご自身の会社でできなければ、専門の有識者を全体の事業費から派遣すること。管理自体もしっかりとやっていかないと、来年もだらつといってしまうというような気がしています。

鳴子でもそれぞれのイベントがあったらいいなという意見も出ていますが、これは国がやることでなくて地域がやることでございますから、その辺の住み分けをしていかないといけません。

事業を仕切る方のやる気が大事だと、このように感じました。

【清水座長】 時間もありますので、とりあえず一通り、説明しましょう。

【観光・地域づくり事業調整官】 天ヶ瀬ダムでございます。18 ページをご覧ください。こちらは地図でございます。19 ページは第 1 回協議会でございます。既存組織と連携組織で現地協議会を実施したという状況でございます。20 ページは事業の実施方針でございます。「もうひとつの京都」ということで、こちら宇治市になりますので情報拡大というタイトルを掲げてございます。概要としては、有名観光地からの外国人観光客の誘客を検討していきたいということでございます。事業の柱としては、天ヶ瀬ダムの多角化、周辺地区と観光資源の広域連携ということでございます。目標としては、京都市内から宇治市に呼び込む観光客数の増加、あとは滞在時間および宿泊者数の増加ということを目標に掲げてございます。

21 ページはツアー設定についてでございます。①は天ヶ瀬ダムのツアーの魅力向上についてということ、キャットウォークからの見学をしていただいておりますが、こちら観光放流と組み合わせたプログラムを検討していけないかということでございます。②につきましては、周辺にダムがあるということ、高山・比奈地ダム等との連携ということ、ダム好き満足ツアーを検討していくということでございます。③はダム直下に天ヶ瀬発電所等ございますので、通常見学を受け入れていない関西電力の発電所との連携も考えているところでございます。

周辺地域との連携でございますけれども、宇治市内、地域周辺との宿泊パックとの連携ということで、お茶の京都 DMO を主体にした観光部署と連携ということでございます。普段立ち入れない施設の案内や企画も想定しているということでございます。②ですが地域の観光資源ということで、世界遺産、日本遺産とございますので、そちらの連携も考えております。あとは情報発信も考えてございます。最後ですが、宇治川を活用した E ボートの特別運航ということで、下りとダムの連携も考えているという状況でございます。

22 ページ、第 1 回協議会での意見でございます。ツアーを今まで実施しているのですが、人が集まらないと。あとは台風などでの中止になることもあったということでございます。また、DMO が販売するための体制があるが、アクセス、駐車場が整備中のため、まだ個人向けツアーの販売が出来ていないということでございます。あと宇治市の売りはお茶ということで、お茶との組み合わせで地域を説明できるストーリーが作れるかと。また宇治市の観光振興プログラムにおいて、フットパス等の整備を実施しているため、それとの取り組みを実施していくということでございます。

あとは広域観光については、DMO と各観光との連携も行っていないといけないということ

でございます。事業実施方針ですけれども、ダム観光単体ではなく、宇治市との連携が必要だと。ツアーにつきましては、ダム、お茶、寺院をテーマに多角的に京都を見せる。ファムツアーではダムと各要素のとの連携に対する評価や改善点を確認していくということにしております。

23 ページ目がファムツアーの実施状況でございます。行程等も記載がございます。

24 ページ目がファムツアーの意見でございます。キャットウォークについてはやはりエキサイティング、あとダムと自然の調和が素晴らしいと。受け入れ態勢については、お坊さんのガイドは特別感がある、普茶料理はベジタリアンやヴィーガンにも向いているということでございます。

改善点としては、ダムが宇治の生活やお茶を支えているストーリー説明できるとよいというお話がございました。あと地域観光の連携ですが、茶畑は景観はよいが、電線が邪魔という意見と、あとは SUP やジップラインなどのアクティビティがあるとよいのではないかと。あと英語、中国語の説明がなかったり、不足している施設もあったと。また京都と比べて PR 不足ではないかという意見がございました。

25 ページは今後の検討課題でございます。1つ目は駐車場とかアクセス等に合わせた個人向け見学ツアーの設定・販売。2 つ目は公園整備とあわせて計画されている旧志津川発電所の整備の検討。3 つ目は南山城 12 市町村の観光との連携。4 つ目はインバウンド向けの観光資源の選定とダムを組み合わせたストーリー。5 つ目が多言語対応の推進、ガイドの確保育成。そして6 つ目、プロモーションを検討していかないといけないと。

天ヶ瀬ダムについては以上でございます。

【河野委員】 補足します。天ヶ瀬については、最初は広域という話で、結局宇治の中にとどまることにはなりましたが、それはそれで方針転換ということで、問題ないと思っています。ここはお茶の京都 DMO があるので、この地域の場合はダムの管理事務所が中心というよりもお茶の京都 DMO が中心となって販売やコーディネートをできるという強みはあります。ただ、彼らがまだダムについての理解がないので、商品化については連携をしていかないといけないということと、これまでダム管理側はキャットウォーク等を受け入れているので心理的な抵抗は低いというメリットはあるものの、ダムに向かうためのアプローチ道路が細くて、駐車場はない、自家用車をパズルでうまくあてはめていかないと入れないという状況なので、観光資源の場所というと、確実に欧米系の団体向けの場所ではあるんですが、その団体を呼べないという立地上、設備上の課題とのバッティングがあります。

京都からの人を引っ張ってくるというのがこの地域全体の一つの目的、ダムがあろうとなかろ

うとそれが目的ですが、アジア人は数多くの有名なところをたくさん回りたい人たちなので、彼らはターゲットとして向かなくて、協議会では名言はしていませんけれども、心の中では欧米をターゲットのイメージにして話しているなという印象は受けています。なのでこれからはそれをきっちりと明文化していく必要はあると思うのですが、原則として欧米ターゲットで、本当は団体を呼びたいけど難しいので小中グループを呼んで来ようとする中で、これは組み立てられているものです。

その中で、先ほどヴィーガンにもいけるとあった、黄檗宗の総本山のところの普茶料理、それを食べられる特別感があるというのと、有名どころの平等院はみんな行くのであえて入れていないということで、体験を中心に組んでいるということでツアーの組み方はさすが DMO。バランスがとてもいいと思っています。ただ今回は急ごしらえだったので、ダム、水、お茶の歴史的な繋がりの説明が足りない部分は、必然性をこのルートに持たせるには必要不可欠なものだと思っています。

今回はインバウンド対象として作りましたが、これまでは源氏物語を誘客の核として売っているものの、日本人にあまり響いていないところなので、今回は絡めない形にしていますけども、これも正解だと思っています。

25 ページに旧志津川発電所の整備と書かれていますが、耐震に問題があり、外観が昔ながらで良い建物で雰囲気は悪くないところですが、これを活かせるかどうかの判断はすぐ出せるものではないので、その辺に関しては行政の計画を待ちながら、ツアーはツアーで別に動かしていくのが無難ではないのかというのが現状でございます。

【篠原委員】 現地に入って「誤解しないで」といつも言うことなんですけど、現地に行くと、よく「ツアーを作るのでしょ」ということを言われるんです。ツアーを作るのではなく、インフラそのものが何か体験できるなど素材として成り立っていないと、いくら周辺に来ている観光客に「ダムに行っ」と言ってもこれはできないんです。施設の何がどのようにストーリーに繋がるかをしっかり固めましょうというところから始まるんですね。

だから、やはり団体と個人を頭に置いて、何が実際できるのかということだと思います。お茶や源氏物語などの素材がありますけども、この素材とダムをどう繋げるか、セグメントしていかないと、一緒くたにツアーにしてもぼやけてくるんですよ。22 ページにある、人数不足で中止というのは、面白くないからですよ。根本的に、インフラの中で何ができるか、ということだと思います。

キャットウォークを歩くというのも、首都圏外郭放水路でもキャットウォークを歩きますが、あそ

こは柵もあり危なくはないですよ。でも、スリルをストーリーに入れていて、あえてハーネスをつけさせるというのをやっており、民間のガイドがコンシェルジュ的に説明をつけて、恐る恐る歩くんですよ。その迫力が 3,000 円の価値を生んで Twitter 等の口コミになっているんですよ。こういったことをイベントでやるのではなく、求めるのはそこではなくて、どう地元の方々の協議会の中で要員を集められるかということをお話しなければいけないと。

あとこのお茶の京都 DMO ですが、あとで来島も出てきますが、例のしまなみジャパン、尾道と今治を繋ぐという DMO ですが、実際なかなか機能できていないんです。このお茶の京都自体も現実問題、人がいない、行政から来ている人がいるということで、機能しているのかなど。DMO イコールできるかというところでもないで、そのチェックをしないといけない。

【河野委員】 ここは幸いなことに協議会に京阪さんが入っているので、お茶の京都 DMO との関係性によって、DMO ができないことを民間が入っていることで、彼らはプロなので、そこに投げるとすることはできなくはないので、メンツ的には安心感があります。

【篠原委員】 そういったことが悩ましいところですが、もう一度素材のところを整理しながら進めていく必要があるなど、聞きながら感じていたということでございます。

【清水座長】 私から、時間もありますので少しだけ。ここは鳴子と比べるともう少しダムに依存する形のコンセプトになるのかなど。正直、周辺資源とのストーリーは作りにくいと見ていたので、もっとインフラの体験とかを軸に売っていくのかなど。欧米系は京都に泊っていてそこから持ってくる、アジア系は大阪から持ってくるかという、国籍によってどこから来るかも違うし、求めるものもだいぶ違うと思います。このこのダムは何か特徴的なんでしたっけ。

【観光・地域づくり事業調整官】 ここはアーチダムで、キャットウォークもあり迫力があると。

【河野委員】 放水ができる。割と自由にできそう。見学会のときにはあえて設定して出していたので、それはできそう。

【清水座長】 2 つを比較すると、そういう印象を受けたということです。

それでは次は来島。

【観光・地域づくり調整官】 それでは来島海峡大橋でございます。26 ページは周辺観光資源の地図、27 ページは第 1 回の協議会の状況ということでございます。

28 ページは事業実施方針でございます。タイトルは瀬戸内を観光のトップランナーへということで、しまなみ海道魅力拡大プロジェクトとしております。概要は長大橋見学モデルの確立ということで、橋そのものの見せ方・体験をどうするかという検討でございます。また橋と周辺地域の地理、歴史を結ぶストーリーということでございます。

事業の柱としては、来島海峡大橋のインフラツーリズムの策定ということで、橋をどう見せるか。あとは観光資源との連携ということでございます。

プロジェクトの目標としては、エレベーターのキャパシティが少ないということで、少数限定、高単価な見学ツアーを考えていきたいということでございます。あとは地域との観光活性化とインフラを繋ぐストーリーを設定するということで考えてございます。

29 ページですが、上の方が塔頂体験そのものの見せ方、下が周辺地域との連携でございます。まず①、個人で随時予約できるツアーを考えていかないといけないだろうと。例えば1日3回とか。あとは島に渡る方法、自転車、定期便とかそういうもののアクセスに合わせて設定していくということでございます。②は日時を限定した少人数・高価値ツアーということで、例えば日の出、日没とか、ハイグレードな飲食等とセットして高価格・高付加価値を目指すということでございます。③はフォトウェディングなど貸切塔頂プランということで、塔頂でのフォトウェディングなどの企画も検討してはどうかということでございます。

地域との連携でございますが、①は日本遺産の村上海賊と連携したツアーでございます。村上海賊関連スポットの周遊等々を考えていくということでございます。②はサイクリスト向けのスタンプラリーということで、長い距離短い距離色々ありますが、これと塔頂体験を同時に体験できるようなもの考えるということでございます。③は橋を立体的に眺めるツアーということで、観潮船から海上から見上げる橋や、亀老山という展望台もございまして、上から見るといった、いろんな角度から橋を眺めるツアーも考えていくということでございます。④は富裕層向けのプランということで、クルーズ船等で特別感を出しながら、乗船者限定のツアーを考えていくというような状況でございます。

30 ページ、第1回協議会の要旨ですが、1つ目は塔頂体験の実施にはガイド、保安要員は必要だという意見、本四高速だけでは十分な対応が難しい。2つ目は馬島での観光資源や体験プログラムが未整備ということ。3つ目はやはりエレベーターの定員が少ないので、団体ツアーや個人ツアーの入れ替えを考えていかないといけない、効率的に実施しなければいけないということでございます。4つ目ですけれども、色々なアクセス方法があるので、それらと組み合わせながら考えていくということでございます。

ファミツアーへの反映でございますけれども、やはりどのようにガイド、保安要員を確保するのかということと、地元と連携しながら、ツアーをしていくという点を確認するということでございます。

31 ページはファミツアーの実施概要でございます。

32 ページ、意見でございます。やはり橋の塔頂は特別感があると。あと地元の人の生活を見るのは面白いという意見がございました。改善点としては橋の技術について、説明がほしいということでございます。あと食事は習慣、宗教上の配慮が必要、橋の説明は専門性があるがそれをわかりやすく説明してくれるネイティブのガイドが必要ということでございました。情報発信はサイクリング等も入ってきますので、体力的な条件等を発信したら良いのではないかとということがございました。

来島海峡大橋については、ファムツアーを受けまして、第2回協議会を1月に実施しておりまして、33 ページに概要がございます。

34 ページに要旨がございます。第2回協議会については塔頂体験と観潮船を組み合わせたコースの設定について認識を共有したということでございます。また、4月以降は社会実験を実施できるように1、2月で調整を行うということでございます。あと塔頂体験のオペレーションを行う人材が不足しているということで、本四高速だけでなく、県、国で経験者OB等を含めての確保に向けて、候補者の抽出をするということでございます。

協議会の結果を踏まえて検討している項目ですけれども、4月以降、週末等に社会実験として塔頂体験を行うことと、運営体制について、関係団体における今後の合意形成を行うということ、ガイドシナリオを検討していこうということでございます。

【篠原委員】 2回現地に行きました。1回目は、塔頂についてどの程度価値があるかという話を地元とさせていただきました。2つ問題があると感じましたが、1つは本四高速の方も本社の方は20周年なのでやりたいとおっしゃっていましたが、現実、現地の所長さんのお話などを聞くと、現場ではエレベーターが老朽化しており故障したらどうするのか、1時間救出できない、とか、事務所の方が要員として張り付くことはできないと。これは当然だと思います。このようなギャップがあるので、どのような安全対策をとるかというのが課題です。

もう1つ、平成21年に私が内閣府の話でサイクリングロードの関係を整備する仕事をしていたんですけれども、今やしまなみは世界ブランドになっております。しかし、今は他のサイクリングロードもブランド化を図ろうということで、空前のサイクリングブームの中で埋もれつつある傾向もあるんですよ。来島には観潮船もあるわけですが、鳴門海峡は有名ですが、来島のはあまりブランドになっていなかったわけですが、村上水軍ミュージアム、これが村上海賊ミュージアムに名前を変えて大々的に売っていくという話なんです。そこの大島という島では、観潮船を発着させている株式会社しまなみさんが非常に意欲を持っていて、地域をまとめています。素晴らしい観潮船と海賊をどう伝えるかを考えておりまして、これがうまく回り始めておりまして、

地域の方はうまく進んでいるんですね。地域もまとまって民間主導で回せるような仕掛けに何とかつながりつつあるということでございます。

一番の課題は、本四のOBだけでは保安要員・ガイドが確保できないものですから、工事中に本四公団に出向していた県、市職員OBなどを集めるために動き始めておまして、うまくはまれば4月以降に社会実験、8月以降は定期期間の運行。その体制ができれば通年化できるのではないかと。

有料化の中では日当も出ますよね。これをお客さんからの収入でペイできるというビジネスモデルが青写真なんです。ただ、まだまだ課題もあるので、年度内にはもう一度地域に入って整理をしなければいけないという状況でございます。

【清水座長】 ありがとうございます。いかがでしょうか。

【河野委員】 民間が強くて、複数のアクセス手段があるというのは面白い環境が整っているのと、ここはインフラが核になれるので、そういう意味では商品化というか、一番動かしやすいと思いました。特に違和感はないです。

【篠原委員】 ここまで来るのもようやくというところなんです、相当ぎくしゃくしながらこまできたんですね。通常のパターンでは、行政が誰が民間にいるかというのを探るのが多いんですが、今回は逆に民間が火がついて燃えてくれているので、パターンとしてははまりやすい印象です。

【清水座長】 社会実験は、やる以上は色々と検証していただきたいですが、これは主として主塔に登るというツアーを有償ベースで回るようにする上で出てくるいろんな課題を解決することに特化したような社会実験ですよ。

【篠原委員】 あとは、通年化に向けて、ビジネスモデルに乗せる上での課題ですよ。

【清水座長】 そこがしっかりしていないと始まらないということですよ。

社会実験はやるだけやって検証があいまいになることが多いので、そこだけご注意ください。それ以外のところは、あと全体についてもそうですが、ガイドについては必ず人がやらないといけないんじゃないでしょうか。

【河野委員】 そんなことはないです。昔は海外に日本人を沢山連れて行ってましたが、専門性が高くて日本人がガイドや添乗をできる場所なんてエジプトかトルコくらいしかなくて、あとは全部英語ですし、人がいないようなところはタブレットや紙というところもあって、人が付いてくるだけで20ドルとか。

【清水座長】 電子デバイスの活用もありかもしれない。

【河野委員】 それベースでも良いと思います、これからは。

【篠原委員】 観光はテクニカルビジットとは違うので、客層にもよりますよね。その辺は様子を見て進めない。

【清水座長】 どこかでうまくいけば横展開できそうですよね。一番進んでいるところなのでやってもらえればなんて思ったんですけども。

【篠原委員】 進んでいると言ってもまだまだなんですけれど。

【清水座長】 では次は鶴田ダムですか。

【観光・地域づくり事業調整官】 鶴田ダムでございます。35 ページは周辺資源の地図でございます。36 ページは9月に協議会を実施しております。37 ページ、タイトルは新しい日本の観光提言ということで、さつま観光未来プロジェクト、インフラツーリズムを核に新しい鹿児島の観光の活性化ということで、新たなものを作り出していこうということでございます。

概要ですが、鶴田ダムを中心とした沿川の3市2町が観光資源の磨き上げをしながらやっけていくということでございます。事業の柱でございますけれども、鶴田ダムの見せ方、インフラツーリズムの深度化。また周辺地区の観光資源との連携ということでございます。

プロジェクトの目標ですけれども、鶴田ダムを日本一のインフラツーリズムの拠点とするということで掲げてございます。

38 ページ、各種ツアー設定で、団体向け、39 ページには個人もございしますが、いろいろな見せ方を深度化に向けて検討している段階でございます。

①は教育旅行ということで、ダムが持っている役割ということで自然災害、温暖化等々をいかに説明できるかというようなところでございます。②は高齢者、障がい者に向けたバリアフリー見学ツアーということで、ダムなものですから、急で長い階段等ございしますが、将来的なハード整備も含めて、高齢者や障がい者にも見せられるような形にしていこうということでございます。③は旅行会社とのタイアップということで、防災を軸とした体験型ツアーも考えてございます。④はダムということでテクニカルな企画ツアー。⑤ダムマニアの満足ツアーで、ダムマニアにどう見せるか。⑥は鶴田ダム監査廊に焼酎を貯蔵する企画も考えているところでございます。

39 ページ、個人向けツアーでございますが、①については近隣温泉施設との連携、②は1人でも受け入れ可能なツアーということで、利用しやすい60分、90分コースのツアー設定がいいのではということ。③はダム湖には遊覧船がございします。ダム湖に旧曾木発電所遺構まで船を利用するダム見学と一体になった企画も考えてございます。④は観光放流ですが、11月に初めて観光放流を実施しましたが、これを定例化していければということでございます。⑤は

水力発電施設、J パワーの発電所も近くにあるので、それらとの連携を考えた新たなツアーも考えているという状況でございます。

40 ページは第 1 回協議会の要旨でございます。やはり自治体間で取り組みに差があると。また、ダムと地域の資源をつなげるストーリーが必要なんですけれども、土木広報にとどまらない顧客価値の追加や連携が必要と。あとはこの地域でしか出会えないような食事、文化、しきたり等を観光資源として。あとは放流イベントですが、秋の風物詩としてアピールしていきたい。あとは船を活用して、湖面から旧曾木発電所へ行くツアーを検討しているということで、ファムツアーについてはダムと地域の資源をつなげるストーリーを作り、顧客価値と周辺観光資源との連携を意識した商品企画していこうということでございます。旧曾木発電所遺構や点検放流をセットで企画しまして、ファムツアーでは各市町村、いっぱいございますが、それらの市町村と連携をして、評価や改善等を確認していくということでございます。

41 ページがファムツアーを実施した概要でございます。

42 ページがファムツアーでの意見でございます。評価点はダム内部の見学はとても貴重な体験だったと。またマルシェも実施したんですが、良かったと。観光資源との連携ですけれども、サムライツーリズムは子供たちとの交流ができた、居合道も出来たという感想でございました。改善点はやはり仕組みがわかる解説が欲しい、英文パンフレットもあればさらによかったということでございます。あとはダムの操作室ではレクチャーだけでなく質疑など双方のコミュニケーションがあれば良かったと。また、やはりダムなので、地域への生活へ与えた影響を知りたかったという意見がございました。あとは地域資源との連携ではアクティビティがあればよい、受け入れ体制ではスマホの音声ガイドや多言語ガイドがあるとよい、情報発信では地域一帯を一つにまとめたパンフレットがあるとよいといった意見がございました。

43 ページは今後の検討課題ですけれども、1 つ目は防災・治水をテーマとした定時出発ツアーを検討していく。2 つ目は点検放流を季節イベントとして定着していくと。3 つ目は船を利用した旧曾木発電所遺構見学ツアーの検討。あと地元温泉宿泊者を対象とした特別企画の検討、J パワーとの連携、サムライツーリズムや地域 NPO の既存メニューとの連携、子どもガイド等地域の教育との連携、各自治体の観光素材の明確化と売り方の検討をしていきたいということでございます。

鶴田ダムについては以上でございます。

【篠原委員】 鶴田ダムでございますが、第 1 回の現地協議会から入らせていただきまして、早めに進めてきましたけれども、沿川の自治体を河川の所長がまとめていまして、非常に良い

関係だったんですね。鶴田ダムは付加価値をどうしようかという話なんです、ダム管理所長の竹下さんという方も燃えている男ですね、小中学生向けの防災教育プログラムを展開しようとして、具体的にもう作文も始めています。今日はその資料はないですか。

【観光・地域づくり事業調整官】 資料 3-1、3-2 ですね。実施方針とツアーの案をまとめたのが資料 3-1、今先生がおっしゃった細かいところは 3-2 にそれぞれのツアーを細分化して載せています。鶴田ダムは後ろから数枚めくったところにございます。こういった形で作り上げていこうとしてございます。

【篠原委員】 こういう具合に地元と一緒にダム資源を活用しようということになっていて、ここはダム湖がなく川になっているんですね。一説ではジブリに出てくる、旧曾木発電所がありよく CM などでも見る風景なんです、そこにダム観光の方だけ、NPO が船を持っていますので、何とか栈橋を作って使えないかという検討も進めています。この進め方というのは、昨年度、九州地整の熊本の震災復興の中の立野ダムで大成功しているんですが、それと同じやり方で進めているところ。かつてそこにおられた所長が本局におり、鶴木さんというんですが、非常に頑張っていたので、来週、一緒に入り現地で調整をしていく。これもなんとか形にしたいなというところございます。

【河野委員】 NPO が船を持っているのはすごくラッキーだと思うので、ダム湖がないということで、どうアクセスするかイメージはわかりませんが、遊覧船はいろいろなダムがやっていたりとかしますけど、始めてみると採算ベースに乗らないことがほとんどだったりします。NPO が持っているとは言っても、ランニングコストは非常にかかるみたいなので、事業シミュレーションはしておかないとリスクは大きい気はしました。でも面白そうだなとも思っています。

42 ページの意見の中で、地域一帯のパンフがほしいという意見がありましたが、これはおそらくモニター参加者の方が日本を知っている方だからこの意見になっているとお伝えしたいと思っています。この前、別省庁の事業で、成田から出国する人たちにアンケートをとった結果で、日本で旅行先を決めるとき、あるいは現地にいる間に参照した情報媒体と日本滞在中に見た情報に、地域の狭域のパンフは基本挙がってこないんですよ。現地からでも海外からでも、旅行ガイドブックを除くと全部 WEB なんです。なので、パンフに変に引っ張られるようなら、むしろトリップアドバイザーからのリンクとか SNS、検索でジブリの名前を入れたらここに行きつくといった WEB 動線を作ったほうが良いです。

パンフはあくまで来てくれた方へのホスピタリティのツールで、誘客のためのツールではないので勘違いしないようにしていただくと良いかなということだけ補足します。

【清水座長】 いろんなツアーを設定していますが、鳴子はまずはインバウンドメインで考えていたので、日本人向けのツアーは実は考えていないんです。でも持続的にこういうことを続けていくにはそういうことも考えないといけないと思うんですが、鶴田は逆にいろんな属性を考えているんですが、インバウンドというと③とか④になるんでしょうか。

【篠原委員】 インバウンドは、私の見立てではですね、霧島温泉、さびれた温泉ではあるんですが、外国人が興味を示しているんですね。そこら辺の旅館組合も非常に前向きなので、その辺で特別な扱いで、国別、人種別にちょっと組合せを考えていくということかと思います。今、地元の方の受け入れ態勢とストーリーがない中で行ってしまうと、必ず息詰まるので、そこは今度合わせて行ってこようかと思っています。

【清水座長】 流域が鹿児島島に向いていないので、どことつなげて誘導するか、そういう意味では壁の大きい地域。

【河野委員】 えびのとかは外国人の誘客に相当力を入れているので、そういうところと齟齬がないようにすると良い。

【清水座長】 入口が日本人とは違うかもしれない。そこだけですかね。

あとは八ッ場ですか。

【観光・地域づくり事業調整官】 八ッ場ダムでございます。44 ページは地図でございます。45 ページ、昨年 9 月やんばツアーズのツアー実施が終了し、10 月以降、地元主体でのツアーに移行してございます。地元主体での自走に向け、現地においてアンケートやファミツアーを実施する予定でございます。

ヒアリングについては記載がございましたように、11 月から 12 月に、対象がかなり多くございますけれども実施いたしました。その下、抽出した課題ですけれども、各市町村、地域、色々ございますが、観光客受け入れに対する意識の差、外国人がけっこう来てくれるところとまだまだ呼び込みが必要なところと、地域によって意識の差があるというのが分かったところでございます。あとは外国人対応のための財源の確保や Wi-fi やキャッシュレス等のハード面の整備に関する施設間での格差があることが分かったということでございます。

46 ページは訪日外国人を対象としたアンケートでございます。アンケート集計結果、八ッ場ダムについては 9 割がまだ知らないと。また、行きたいかどうかはまだ 3 割程度にとどまっているということで、そもそも八ッ場ダムって何をするとところなのか、見るところなのかという意見もあったということでございます。温泉施設についてはぜひ行きたいと。また台湾はやんば見放台、東南アジアは水陸両用バス、欧米はやんば見放台や温泉等々といったように志向が分かれた

ということでございます。

課題はまだわからないという回答が多いので、認知度・情報不足が明確になったと。また国によって魅力を感じるコンテンツにばらつきがあり、ターゲット国にあった戦略が必要ではないかということでございます。

47 ページ、ファムツアーについては 1 月 30 日、明後日から実施でございます。下にございますが、草津温泉をキーワードに温泉とダム周辺のパッケージの有効性を確認する予定でございます。

【篠原委員】 今年で 4 年目になります。振り返ると、国土交通省と地元が大きく割れて、話し合いの場も持てない状況でした。これを観光という観点でどう繋げるか、というところからスタートしました。八ッ場ツアーズというのを作り上げて、当時の岩崎さんという所長と今の浅田さんに頑張ってもらって、非常にいいツアーができ、大きな話題になっていきました。あれから時間がたって、今年は引き渡しの状況なんですけど、去年くらいに地元を引き渡して運営体制をしっかり作っていければということをやっていたんですが、最後の最後に甘えが出て、地元からやっぱりできないと来てしまった。これは突き放そうということで、国のツアーは止めましょうという話になっていったんですね。今回の話ではその辺の行き違いもあり八ッ場が選定されてしまったという裏側もあるんですね。

なのでここはデリケートでもありますし、来年の選定を含めてデリケートに扱っていくべきじゃないかと思っています。

【清水座長】 ありがとうございます。ちょうどファムツアーが今週ですね。特にまだやっていないですからね。

【篠原委員】 外国人に聞いても八ッ場は知らないですよ。

【河野委員】 私、アスワンハイダム以外の海外のダム知らないです。

【清水座長】 フーバーダムとか、歴史上有名なものとかであれば分かりますけど。

これは結果を注意深く見ていくということで。

【河野委員】 ファムの人たちの意見を聞くのはそれはそれでやっていただくこととして、これからの仕切り直しで誰が音頭を取っていくのかということ聞いてこないで、来年度に引っ張っていいのか、サポートに入った方がいいのかがわからない。そこをがつつり聞いてもらうのがまず八ッ場の課題だと思います。

【篠原委員】 最後のお土産で、水陸両用の屋形船を出すまでやろうと。でも私は持って 2 年ではないかと思えます。国土交通省とチームやんばと言うのを作ったんですが、国の事務

所も人が減るので、ちゃんとサポートしてあげなきゃということですね。

【清水座長】 私の周りでも、大学の研究室が入って3年くらいで現地に渡そうと思ったら無理で、10年くらい引きずっているという事例があって、放っておくとそうになってしまう、甘えが出てきてしまう。小金をどう現地に投げていくかということの検証もありますね。

では最後ですね、手短にお願いします。

【観光・地域づくり調整官】 今年度の成果のとりまとめということで、49ページからご覧ください。3月に向けて、各地域で検討していかなければいけない共通の項目について、提示させていただいています。

まず1つ目、インフラ施設見学の深度化ということで、どのようにして顧客価値を向上させられるか、これをまず検討しないといけないということでございます。

その下に色々書いてございますけれども、まずはインフラ施設をどう見せるかについて検討していくということでございます。

2つ目ですが、とはいえインフラ施設だけでは集客も厳しいということで、地域観光資源との連携したコンテンツ作りということで、インフラ施設を関連付けたストーリーを組み立てて整理していきたいという考えでございます。

3つ目、地域にも問題、課題等ありましたが、インフラツーリズムの運営体制の構築ということで、自立的なツアーで地元が中心となって体制を構築していかないといけないということでございます。

4つ目、インフラツーリズムの実践ということで、その先の話にはなるかもしれませんが、販売プロモーションについてもPRも含めて整理していかないといけないと考えてございます。

この4つが各箇所共通した今年度の検討項目としてあげているものでございます。

51ページ目でございますが、手引きの拡大のステップと先ほどの検討項目を模式的に図化したものでございます。深度化や運営体制構築はこれからもずっとやっていかないといけない、地域との連携、実践についてはプロモーションや販売手法についても段階に応じて検討していかないと考えているところでございます。

52ページは、最終的には自走化を目指していかないといけないということで、地域が主体となってということでございます。手引きの勘所を踏まえて、模式図化したものでございます。ステップ1から2、3、4ということで、これが1年目、2年目というわけではございませんが、やはり自走化に向けてまずは施設の見せ方、地域との連携、持続性の確保、魅力発信等をしなればいけないということで、各地域の検討課題としてまとめていきたいと考えているところで

ございます。

以上でございます。

【篠原委員】 来年に向けては、聞いたところによると、今年は片手くらいトライしているが、来年度はかなり抑えられると聞いています。

私は、お金を入れることは逆にマイナスになるなと思っています。予算を協議会運営や人件費に充てても、その後の年に回らなくなって結果だめになるのをたくさん見ておりますので、今回の5地域を具体的にフォローする体制が必要だろうと。また、他の地域を選定してみるとか、募集をかけてみるなど幅を広げていきながら、生き残っていくところを探していくということでしょうか。この辺も非常に重要だと思うので、引き続きご検討をお願いしたいところでございます。

【清水座長】 その辺りは次回話すということでよいでしょうか。

【観光・地域づくり調整官】 そうですね、次回の中で次年度の方向性についても説明させていただきます。

【河野委員】 49、50 ページ、検討1から4の中にポツがたくさんありますが、5地域全部に必要な項目と、地域に応じて取捨選択というか、必要であれば検討するという項目が併記されています。なので、まずはその見せ方を整理して地域に伝えないと、これ全部やるとなるとそれだけで地域は腰が引けますから。あと、必ずやらなければいけないものの中で、インフラメインで押すのか、メインはお茶とか別のもので引っ張ってくるのか、というストーリーをどう持っていくか、気分をどう作っていくのかは必須であって、ガイドシナリオも必須であるとか。絶対やらなければいけないことなど3段階くらいで整理したほうが良いと思います。そうしないと地域の中でやりやすいところ、モデルツアーなど想像しやすいものから着手されてしまいますので。そうすると最後筋が通らなくなるので、その辺りの伝え方が大事なかなと思います。

【清水座長】 一番クリティカルなところというんですかね。ここをやらないと羽ばたかないと、あとは枝葉末節だというような伝え方をした方が良いと思います。

私は最終的には3をどう考えるかだと思うんですが、1、2がしっかりしないと3は成り立たないですね。1は今回の地域でいうと、天ヶ瀬と来島と八ッ場、2だと鳴子と鶴田ですね、どちらを優先するかという。各地でインフラ資源そのものの立ち位置とか、周りの資源とか、宿泊拠点はどういう環境にあるのかとか、今までの進捗度合いはどうかとか、それによって話が全然変わってくるので、地域ごとにフィードバックできるように、我々の方で答えを持っておく必要があると思います。

【観光・地域づくり事業調整官】 今、阿部委員の意見を配布させていただきました。先生に

資料をお送りしたあと、先生から紙が届きましたので配布させていただきました。インフラツーリズム拡大の手引きの更新も考えていかなければいけない、課題も個別解なのか普遍解なのかを分析しながらやっていかなければいけないというようなご意見をいただきました。

【清水座長】　今まで出なかった観点はありましたか。なければ特に良いですが。時間の関係もありますので。

【観光・地域づくり事業調整官】　意見的には皆様の意見が入っているかと思います。

【清水座長】　わかりました。ではご参考ということで。

では議事は以上の通りになりますが。今日の意見は事務局でとりまとめていただいて、また公表するときに私の方で確認させていただくということによろしいですかね。

それでは事務局の方にお返しします。

【観光・地域づくり事業調整官】　長時間に渡りありがとうございました。最後に、閉会にあたりまして総合政策局公共事業企画調整課の藤田より挨拶いたします。

【事業総括調整官】　本日は皆様お忙しいところありがとうございました。また現地にも積極的に行っていただき、具体的なご提案等をいただいていると伺っております。誠にありがとうございます。

私たちはどちらかというと作ったり管理をするのは得意なのですが、このように観光資源としてというのは全く素人なので、引き続き皆様方からのご意見をいただいて、今年度のとりまとめ、そして来年度に向けてまとめていただきたいと思います。次は3月になると思いますが、次回も活発なご議論をいただきたいと思います。本日はありがとうございました。

【観光・地域づくり事業調整官】　以上をもちまして第5回インフラツーリズム有識者懇談会を閉会させていただきます。本日は活発なご意見どうもありがとうございました。

以上